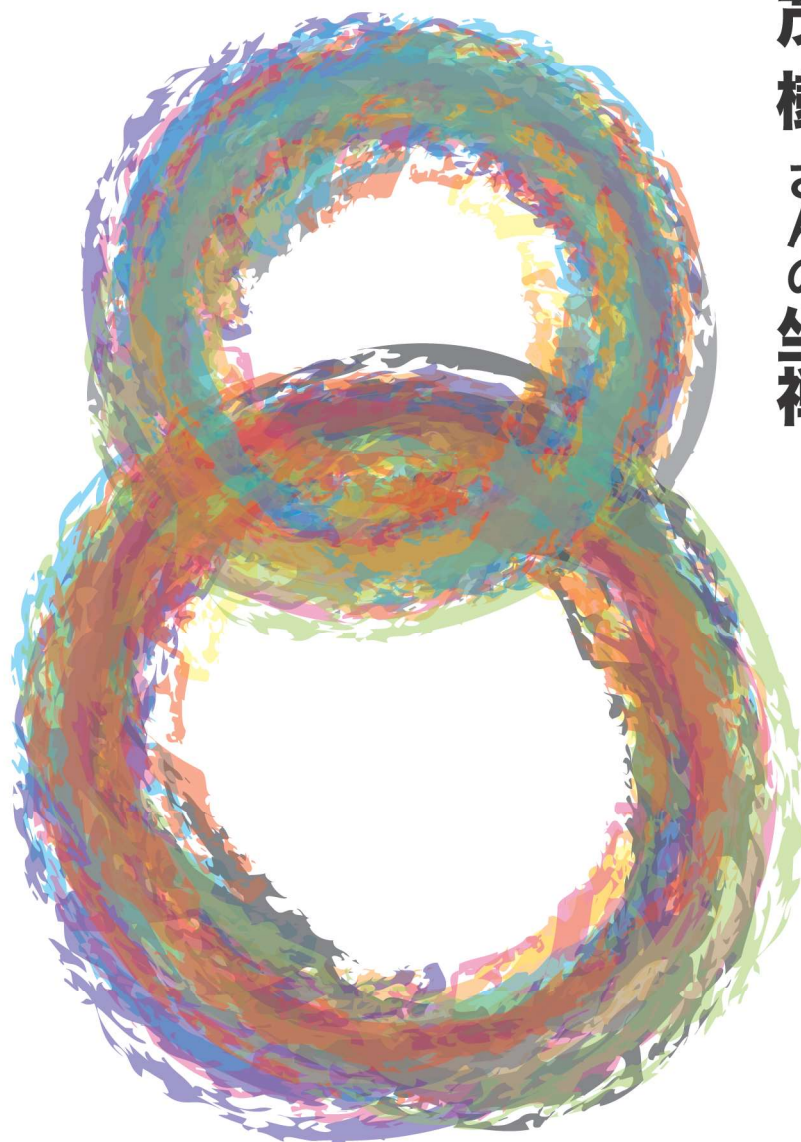


本物にであう 第6弾！
「動かない ころ～坐禅からみえてくるもの～」

NHK「ラジオ深夜便」でも活躍中の

東京大学教養学部教授の

野矢茂樹さんの坐禅。



「坐禅は呼吸に集中しながら、意識は外にひらいていくんですよ」と野矢さん。
「えっ？それってスポーツと同じじゃないですか！」と伊野。
そんな話から実現しました。感謝です。

2017年3月20日(祝・月) 東京大学駒場キャンパス (井の頭線駒場東大前)

希望者はAM10:00～12:00 ステップインにて練習→軽食をとった後に駒場キャンパスに移動(バスと電車)→Pm2:00～4:00 野矢さんのお話と坐禅。
準備するもの/坐りやすい服装(膝とお腹が楽なもの・スカート・きついジーパンなどはご遠慮下さい。)あとは身ひとつとまっさらな心をご用意ください。

野矢茂樹(のやしげき) 1954年生まれ、東京都出身、1985年東京大学大学院博士課程修了、北海道大学助教授を経て、現在、東京大学教養学部教授、哲学専攻、主な著書に「論理トレーニング101題」(産業図書)、「はじめて考えるときのよう」(PHP文庫)、「哲学な日々」「心という難問」(ともに講談社)などがある。

坐禅というと「悟り」なんていいますが、そういうことはあまり意識してなくて、一学期間やってもらえれば十分その気持ちよさはわかってもらえると思います。そのことが、坐禅ゼミをやっている理由の半分ですね。もう半分は、「自分でも坐りたい」ということなんです。禅堂に何人もの人が集まって、ある緊張感を持って、呼吸を整えて坐禅をしていると、禅堂の中が独特の空気になる。その独特の空気を感じることで、私自身も緊張感を持って坐れるんです。そういう意味もあって、毎年冬学期の間、学生を巻き込んで坐禅をしているわけです。(この文章と右の写真は東京大学ホームページより一部抜粋させていただきました。)

先着 24名



写真 野矢茂樹先生